

# 脱炭素経営取り組み事例

株式会社徳永製茶

2026年2月10日

# 取組のきっかけ

- 2019年、環境や社会問題の専門家からの話
- 令和元年、3年、5年の佐賀県の豪雨被害、その後も続く気象災害  
干ばつ、高温障害など

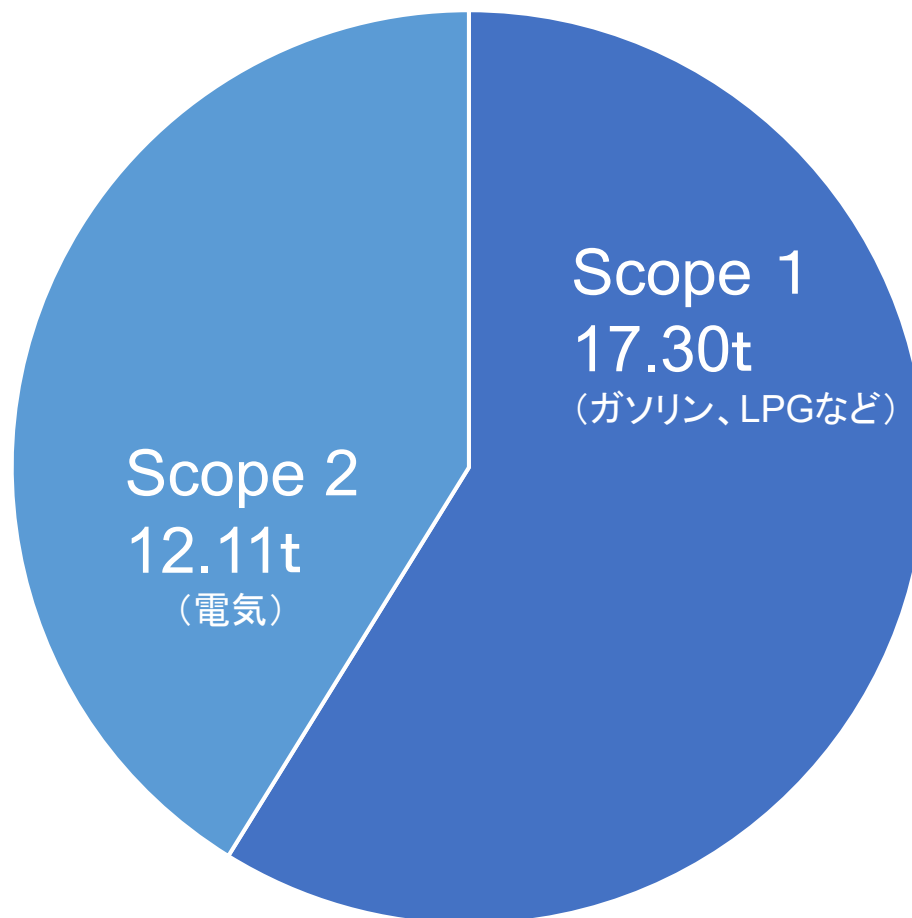
地元の、しかも自分が関わる茶産業の被害をみてCO2削減の必要性を実感



豪雨災害で崩落した嬉野の茶畑

# まず「測る」

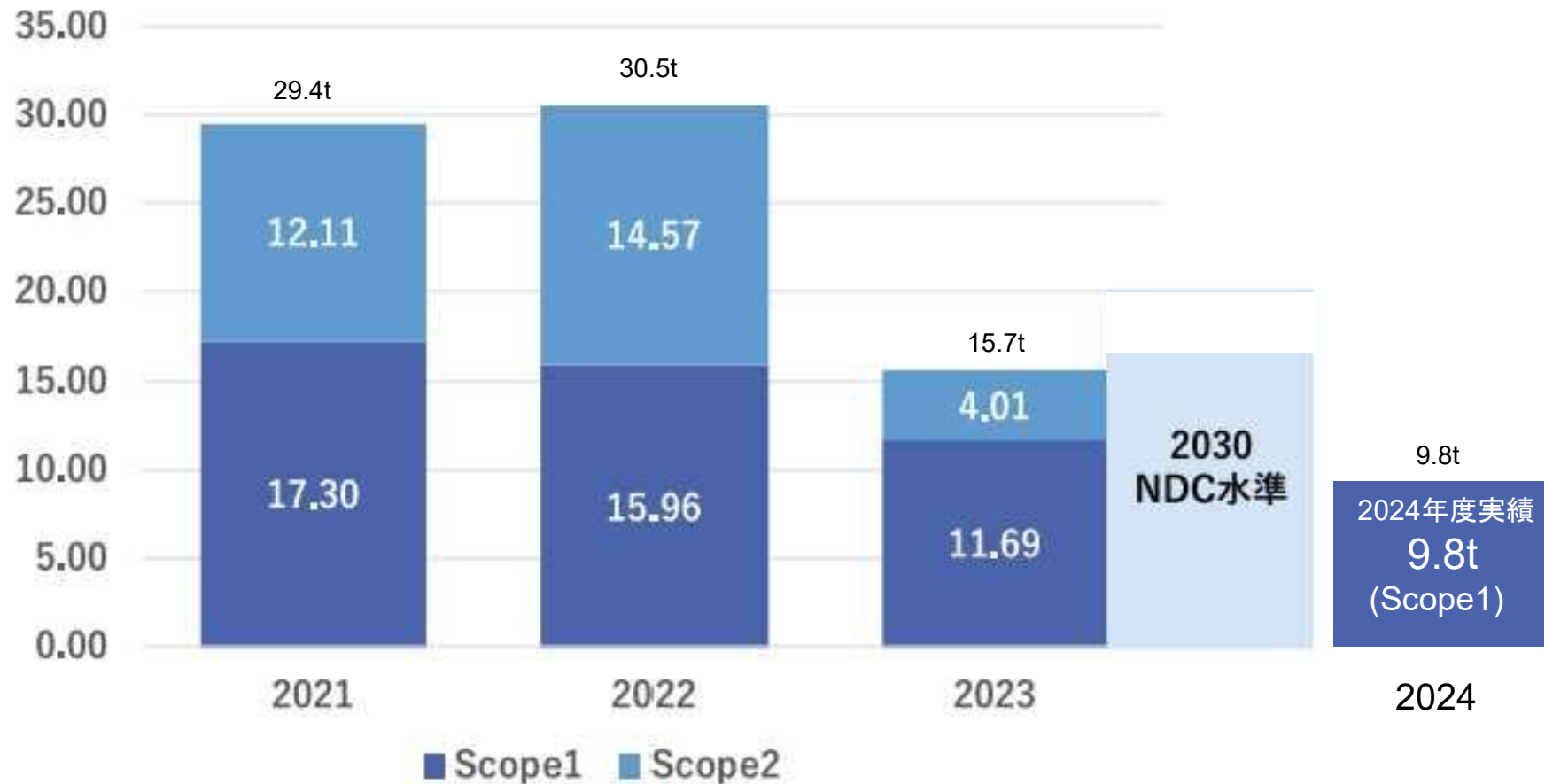
2021年度実排出量



排出した29.4tは佐賀県が創出したJ-クレジットを活用してオフセット(相殺)したところから取り組みスタート  
(佐賀県が保有する県有林「多良岳・有明海の森」間伐促進プロジェクト)

# CO2年間排出量の推移（オフセット前の実排出量）

徳永製茶 CO2排出量の推移[tCO2]



毎年の取組を通じて年間の温室効果  
ガスの排出量を減らしています。

やむを得ず削減できなかった分はJ-クレジットを活用して±ゼロに。

# 削減の取り組み

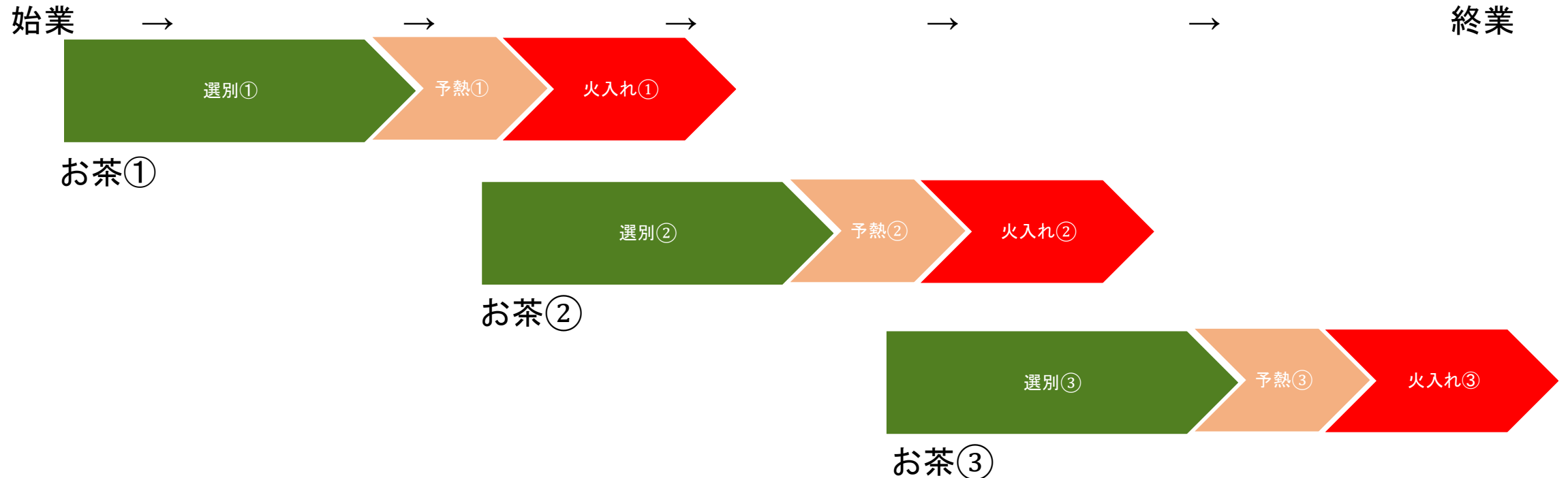
① 製造工程の見直し

② EVの導入



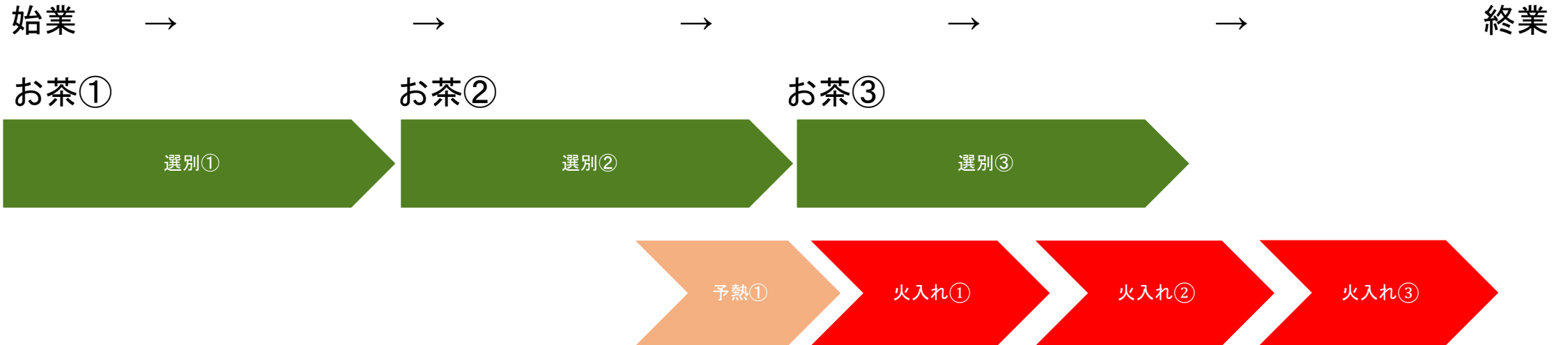
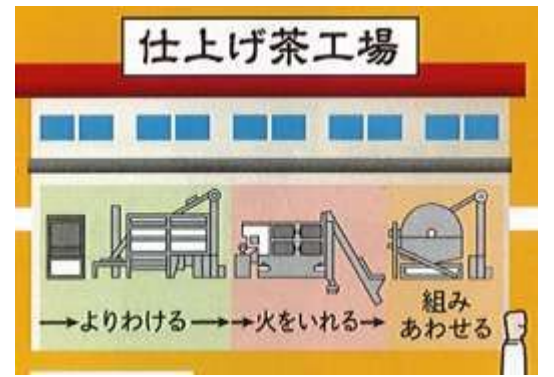
# ① 製造工程の見直し

～ある日の作業内容～



従来は複数種類のお茶を加工する日は順番にかつがつ火入れを行っていた。最初のお茶が仕上がりに、次のお茶に取り掛かるため、2つ目のお茶を火入れする頃には機械も冷えて再度予熱を行っていた。予熱時間は30分程度

# ① 製造工程の見直し



従来ではお茶の種類が変わるごとに予熱を行っていたが、作業を組み替え、予熱にかかる時間を短縮。

## ②EV導入

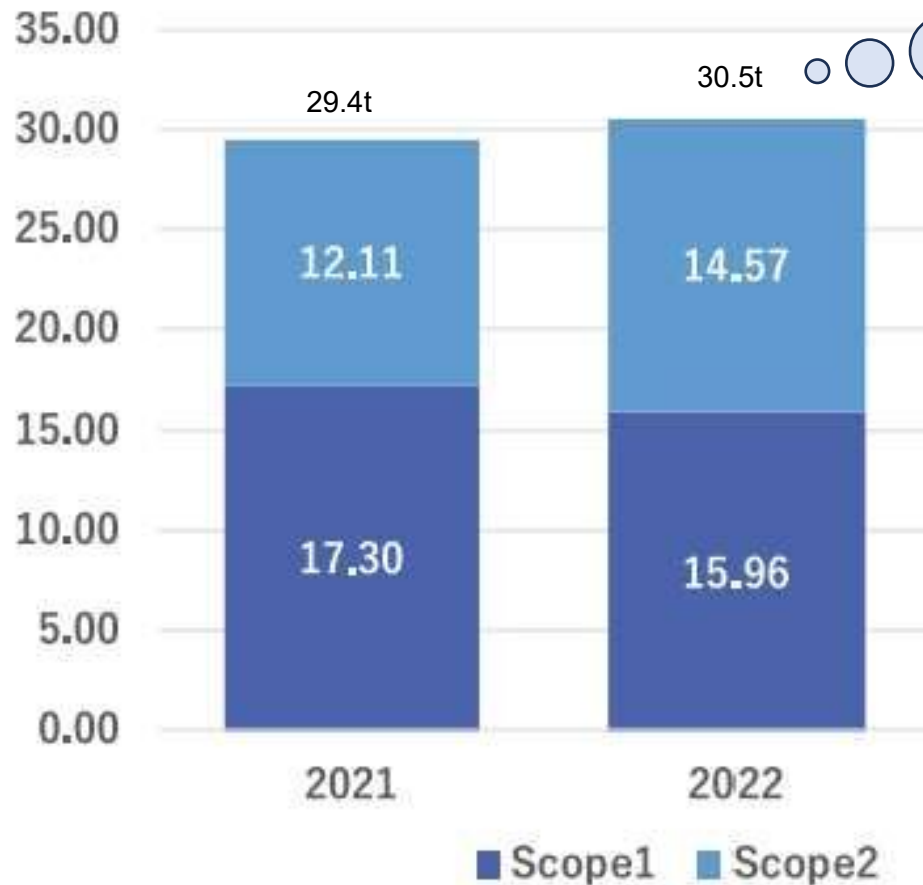


- まず1台、導入して試す
- 徹底的な運用管理  
その日の運転状況を把握し、誰がEVを運転したら全体の排出量が最小で済むかを把握

排出量の比較	ガソリン車	155g/km	(燃費15km/ℓで計算)
	ハイブリッド車	93g/km	(燃費25km/ℓで計算)
	EV	48g/km	(電費 7.1km/kwh)

# 2022年度のCO2実排出量

徳永製茶 CO2排出量の推移[tCO<sub>2</sub>e]

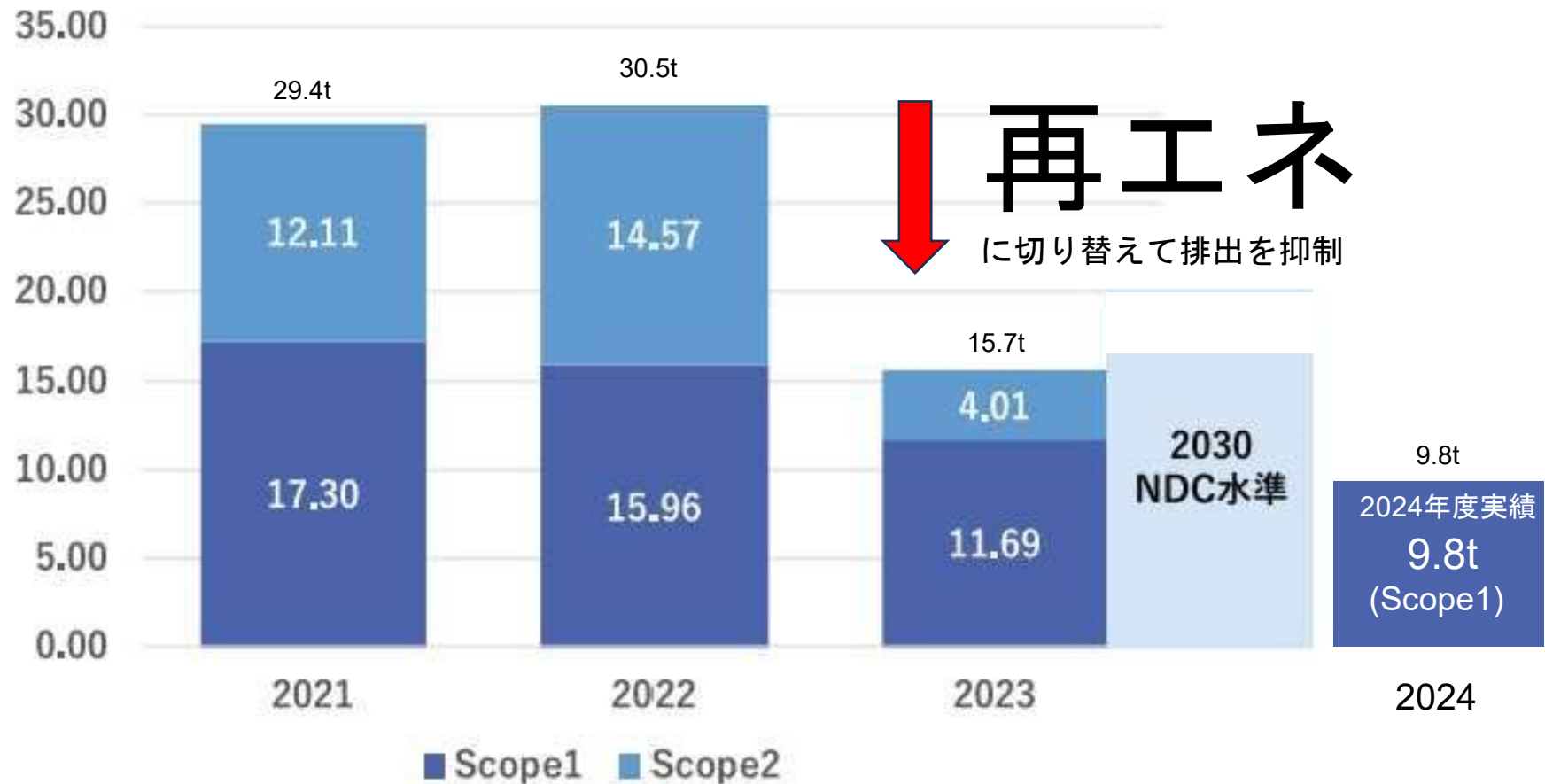


！増えた！

22年は契約している電力会社の排出係数が前年比で1.3倍に  
電力会社の電源構成に左右される、、、

# 再エネ切り替え後のCO2実排出量

徳永製茶 CO2排出量の推移[tCO2]



# CFPについて

CFP(カーボンフットプリント)とは、  
製品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルまでの全工程（ライフサイクル）で排出される温室効果ガス（GHG）の総量をCO<sub>2</sub>排出量に換算し、「見える化」して表示する仕組み

対象とするライフサイクルステージの設定



# CFPを算定する

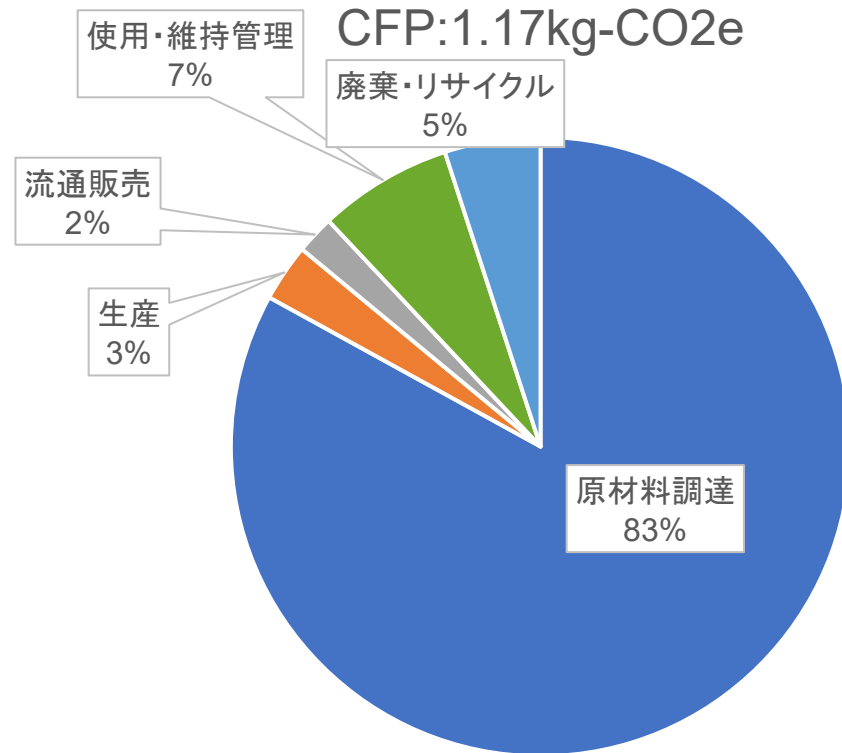
## CFPの算定の仕方



# CFPを算定する



商品名：嬉野蒸製玉緑茶  
内容量：70g  
CFP : 1.17kg-CO2e



CFPの8割は原材料の工程由来である事が可視化

# CFPを算定する

Re:Leafの販売



CFPを算定し、排出分をJ-クレジットでオフセットした商品

# その他脱炭素に向けた実施済みの取り組み内容

1. 中小企業版SBT認定の取得



2. 経産省のGXリーグに参画



3. 店舗や工場のLEDへの切り替え

4. 消耗品調達時は環境負荷の低いものを選択  
→リサイクル梱包材やFSC認証商品の購入

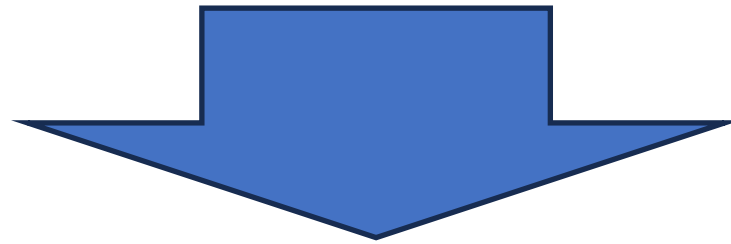
(PPバンド、エアークッション)

(ペーパータオル、クラフトテープなど)

# 脱炭素経営のポイント

(1) はかる

(2) 自社の排出源を見える化



(3) 減らす